

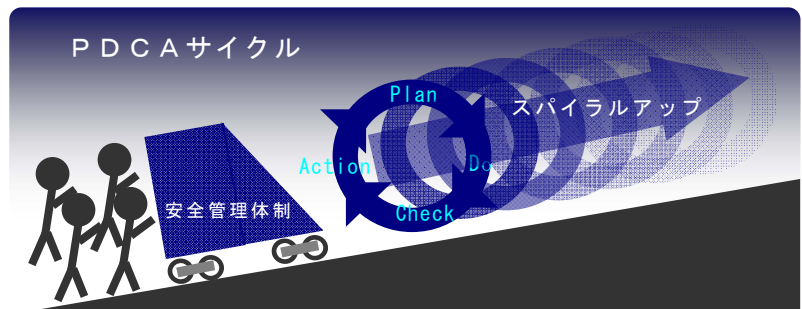
3. 重点安全施策の内容と進捗状況

3.1 安全意識の高揚・安全対策

3.1.1 「安全意識」を醸成するための取り組み

■ PDCAサイクル

安全最優先の意識を徹底させるため、計画（Plan）→行動（Do）→確認（Check）→改善（Action）→新しい計画（Plan）の浸透定着を図り、現場までが一体となってPDCAサイクルを機能させています。また、毎年度、年度計画（Plan）→実施（Do）→内部監査（Check）→年度計画実施結果見直し（Action）→次年度計画の策定（Plan）のPDCAサイクルで各種安全施策を進めています。



■ 法令遵守の徹底

日頃から、コンプライアンスセミナーや教育において法令の遵守徹底を図っています。また、社内規程の他、関係する法律等に対しては、官報や局通達を確実に確認する体制を取っています。特に、薬物乱用に対しては、啓蒙啓発による再発防止を徹底しています。また、春秋の全国交通安全運動等を通じて、通勤時やプライベートにおける交通法規等に対する意識高揚を図っています。

■ 安全意識調査

2006年10月以降、新たな安全管理体制のもと、ヒューマンエラー撲滅に向け、運輸安全マネジメントを展開しています。その効果を把握し、新たな課題に向けて取り組むため、都市交通系社員だけでなく関係グループ社員に対しても、輸送の安全に関する安全意識調査を実施しました。分析結果から課題と認めた部分は、2010年度の安全計画に反映して、改善に努めています。

第7部
安全意識について

「安全意識」についてお聞きします。
A 次のことは重要のあなたにどの程度あてはまりますか、あてはまる程度を1つ選んで、該当する数字に○をつけてください。
※どうしても判断がつかない場合のみ、「* わからない」に○をつけてください。

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | * |
|---|----------|---------|---------|-----------|------------|-------|
| | とてもあてはまる | ややあてはまる | どちらでもない | ややあてはまらない | とてもあてはまらない | わからない |
| 【安全管理体制・意識】 | | | | | | |
| 1) 現在の安全管理体制が構築される以前（2006年10月）と比較して、安全に関する意識（安全意識）が向上していますか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | * |
| 2) 現在の安全管理体制が構築される以前（2006年10月）と比較して、法令や規程、就業規則等に対する意識が向上していますか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | * |
| 3) 現在は、乗務業務の時間外に、安全管理体制の研修や安全意識の研修等、社員の安全意識の一層の向上に取り組んでいますか、乗務の時間外には取り組んでいますか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | * |
| 4) 社員の安全意識や乗務の安全意識をさらに向上させるために、取り組むべきだと感じることがあれば、ご記入ください | | | | | | |
| 【ヒヤリハット等】 | | | | | | |
| 1) あなたの職場は、ヒヤリハットを発生しやすい環境にありますか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | * |
| 2) あなたの職場は、ヒヤリハット情報を十分に共有できていますか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | * |
| 3) ヒヤリハット情報は、事故防止に役立っていますか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | * |
| 4) ヒヤリハット情報を発生に活用するために、取り組むべきだと感じることがあれば、ご記入ください | | | | | | |

14

■安全講習会・安全講演会等

輸送の安全に関するテーマをもとに、社外から講師を招いて講演やセミナー等を実施し、安全意識の高揚を図っています。2009年度は、事故分析能力の向上を図るために、事故分析手法を研究確立しているJR東日本安全研究所のご協力をいただき、講演会と意見交換会を実施しました。また、都市交通事業に携わる全社員の参加を目指して、昨年度も引き続きヒューマンエラーの撲滅に関する講演会を開催しました。



日時 2009年9月18日(金)
 場所 本社ビル エコルテホール
 講師 青沼新一氏 JR東日本 安全研究所
 松橋賢一氏 JR東日本 安全推進部
 テーマ 「ヒューマンファクターの現場への浸透」
 聴講者 約200名



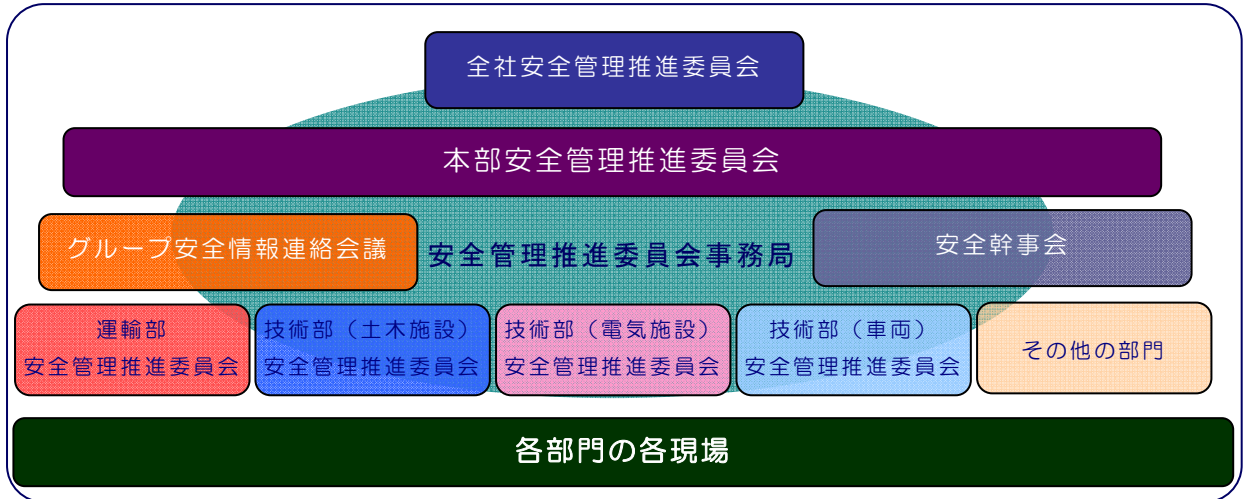
日時 2009年12月7日(月)
 場所 本社ビル エコルテホール
 講師 関口雅夫氏 JR東日本 パーソナルサービス
 テーマ 「事故の失敗から学ぶ あなたはヒューマンエラーを克服できるか」
 聴講者 約200名



日時 2009年6月18日(木)・22日(月)
 場所 本社ビル エコルテホール
 講師 大阪府健康福祉部薬務課
 テーマ 「薬物乱用の現状」
 聴講者 約500名

■安全管理推進委員会における情報伝達協力体制

輸送の安全に関する様々な情報は、下図のような仕組みで共有化しています。



■情報伝達とコミュニケーションの充実

巡視時（社長・本部長）の意見交換会

社長や都市交通事業本部長等の巡視では、現場の実状把握の他、係員とのコミュニケーションを充実するよう輸送の安全をテーマにした意見交換会を設けて、風通しのよい社内風土作りに努めています。



FDM（フリーディスカッションミーティング）

社長や都市交通事業本部長等は巡視以外にも積極的に現場へ赴き、テーマを設けず意見交換を行う「フリーディスカッションミーティング（FDM）」を実施しています。このFDMでは、業務に関わらずレクリエーションや日常生活に至るまでテーマを限定せず、また職位や部門に関係なく円滑なコミュニケーションの促進に向け取り組んでいます。

MAM（マネジメントエリアミーティング）

マネジメントはトップダウンのもと行われますが、現場の安全を維持し向上するためには各部門の現場間の意志の疎通と協力が不可欠です。そのため2010年度から運転・土木施設・電気施設・車両の各部門の現場における横断的な意見や情報の交換を充実させる取り組みを始めました。



ナイトトーク

都市交通事業本部長や各部門長等は、部下とのコミュニケーションをさらに充実するため、各部門の係員とざっくばらんに意見交換する機会を適宜、設けています。

■外部情報の収集と活用

国土交通省からの情報以外にも、事故や運輸安全マネジメントに関係する情報を下記の会議体にて情報交換を図り活用しています。

安全情報連絡会議

全国の大手民鉄及びJR数社が自主的に情報交換する会議です。2006年10月以降、各社で運輸安全マネジメントを取り入れることになった際、試行錯誤する中で始まりました。当社も第2回から参加して、法規や事故情報を始め、新型インフルエンザ対策や事業継続計画（BCP）に至るまで、輸送の安全に関する課題に対する情報共有を進めています。

関西安全担当者情報連絡会議

関西における地域情報の収集や連携の強化を目指して、大手民鉄だけでなく公営各局やJRの他、相互直通乗入をしている鉄道事業者と情報交換会を実施しています。

3.1.3

教育・訓練

■運輸安全マネジメント教育

運輸安全マネジメントが取り入れられた経緯やその背景の他、安全管理規程や年度毎の安全計画の内容やスケジュール等、輸送の安全に係る教育計画を策定して、計画内容の周知徹底を図り実施するよう取り組んでいます。また、各部門でも運輸安全マネジメント等に関する各種教育を実施しています。運輸安全マネジメントに関連する教育は下記のとおりです。

基本教育（4～6月開催）

役員と都市交通事業本部員に対して、運輸安全マネジメントの導入の経緯や背景を学ぶとともに、安全管理規程や内部監査の仕組みの他、年度計画を学習する教育です。また、新人や他本部等からの異動者を対象にした基本教育は随時実施しています。

出前講座（適宜開催）

基本教育の他、運輸安全マネジメントや内部監査員に関わる教育を要請のある各現場や職場に赴き実施する教育です。2010年度からの新たな取り組みです。

内部監査員教育（毎年秋開催）

鉄道総合技術研究所が講師を派遣して実施する内部監査員教育等を修了した委員会の事務局員が講師となり実施する、社内向けの内部監査員教育です。安全統括管理者以下、内部監査を実施する者は全員受講しています。

■コーチングセミナー

コミュニケーションや指導の能力を高めるため、現場の核となる監督者を対象にしてコーチングセミナーを実施しています。また、教育終了一定期間後にフォロー教育を実施して、その効果を高め持続させています。

■外部教育及びセミナー

社外で開催される様々な教育やセミナーを受講し、それぞれ社内教育へと展開して能力向上に努めています。

- ・ガイドラインセミナー
- ・内部監査セミナー
- ・リスク管理セミナー
- ・内部監査者及び管理者研修



■ 運輸部教習所・人材育成センター

当社には、動力車操縦者（運転士）や車掌、助役等を養成する教習所（国土交通省認定）と、駅業務やサービス教育で質の高い駅係員を育成する人材育成センターを設置しています。また、当社の教習所は、他の鉄道事業者の乗務員の育成も行っています。



(人)

| 年度 | 運輸部教習所 | | | | | 人材育成センター 駅員・助役等 |
|------|--------|-----|----|----|-----|--------------------|
| | 阪急電鉄 | | | 他社 | | |
| | 車掌 | 運転士 | 助役 | 車掌 | 運転士 | |
| 2007 | 69 | 40 | 42 | 0 | 7 | 144 |
| 2008 | 69 | 43 | 33 | 0 | 8 | 140 |
| 2009 | 68 | 36 | 30 | 3 | 6 | 89 |



■ 技術研究及び技術向上

・ 運転部門… 車内案内放送コンテスト

実施日… 2010年2月10日(水)

場 所… 本社ビル エコルテホール

概 要… 「お客様にわかりやすい放送を追求すること」を目的に、基本放送や異常時の放送等、車内案内をテーマとしたコンテスト。



・ 運転部門… 接客サービスコンテスト

実施日… 2010年2月24日(水)

場 所… 本社ビル エコルテホール

概 要… 「接客レベルの維持向上」を目的に、「好感の持てる接客姿勢・態度・言葉遣い」「駅の美化」「犯罪防止」を意識した営業関係の取り扱いやご案内をテーマとしたコンテスト。



・ 土木施設部門… 保線作業コンテスト

実施日… 2009年10月30日(金)

場 所… 西宮車庫

概 要… 保線の係員を対象として、教育効果の検証や技術の伝承、線路保守作業の習熟度を確保する目的でグループ会社と合同で実施した技能コンテスト。



・ 電気施設部門… 電路技能競技大会

実施日… 2010年3月8日(月)

場 所… 歌豊教習所

概 要… 若者の育成・技術伝承、電路技能向上を目的として、チーム対抗にて電路技能を競う技能競技大会を開催。



・ 車両部門… 技術研究発表会

実施日… 2010年3月19日(金)

場 所… 運輸部教習所

概 要… 調査・研究の成果や技術習得と技術水準の向上を目的として、年2回定期的に開催。また、技術の伝承を目的として、経験豊富な先輩社員の苦労話や技術論の講演会も実施。



■都市交通事業本部合同訓練

各部門の連携した対応が求められる大規模災害や事故を想定して、都市交通事業本部合同訓練を実施しています。2009年度も社長自らが陣頭指揮を取り、警察及び消防のご協力のもと、下記想定にて実施しました。

- ・日 時 2009年9月11日（金）
- ・場 所 神戸線 西宮車庫
- ・目 的 倒木による列車脱線事故に伴う、警察及び消防と合同による情報伝達訓練及びお客様避難誘導並びに列車脱線復旧訓練
- ・想 定
 - ①甲陽線水道路踏切から夙川方約10m付近で倒木が発生
 - ②倒木が架線を切断し軌道を封鎖したところに下り列車（3両編成）が激突
 - ③1両目の#1台車が脱線し軌道損傷、踏切設備損傷
 - ④倒木が側開戸のガラスを突き破り運転士に衝撃
 - ⑤倒木部が側窓を突き破り車内に侵入し1両目と2両目の連結間の移動が不可能
- ・被 害
 - ①運転部門 運転士負傷、乗客約100名車内閉じ込め
 - ②土木施設部門 レール湾曲 まくらぎ損傷 柵崩壊
 - ③電気施設部門 架線断線、踏切遮断機警報機破損
 - ④車両部門 1両目#1スカート損傷、1両目#1台車進行方向右側に1m脱線
- ・訓 練

情報伝達訓練 倒木撤去 旅客救出避難誘導 脱線復旧訓練（脱線・架線・軌道）
画像伝送訓練 AED習熟訓練
- ・参加者 約200名

